

“売り手市場”の高校生就職、企業選考開始！

令和7年9月18日

キャリア支援の重要性が日に日に高まっています！

9月16日、高校生の就職希望者の企業選考が始まりました。夏休みの学校は、3年生のセンセイを中心に進路指導（就職者の必要書類準備、進学指導などなど）に大忙しでした。

先日、リクルートワークス研究所の記事に、こんな記事がありました。「目下、高校卒採用は歴史的な求人倍率となっている。求人倍率は約4倍で、1人の高校生を4社が取り合っている状況と言える。名のある工業高校では、20倍、30倍の倍率の学校もある。」というものです。さらに、「非常に奇妙なことに、高校卒就職者の就職活動ルートであったハローワークと高校の斡旋率が減り始めている。」というのです。

記事では、民間就職支援サービス、DXサービスの浸透、縁故採用の増加を推測していますが、いずれにしても、高校生は、授業をしながら進路を決めていくので、大学生などと比較して、自分の時間は限られていますし、社会に出てアルバイトなどの経験も少ないことを考えれば、就職希望者は当然ですが、本校のように、「**社会に近い**」高校の進路指導、キャリア支援など、高校の卒業後の方向性を考えておくことの重要度がこれまで以上に高まっているのではないかと感じています。

マイナビ転職（キャリアトレンド研究所）によれば、2023年新入社員に聞いたアンケート、「あなたは、今の会社で何年働きますか？」に対して、**入社した段階**で、「3年以内約24%、4・5年約16%、6～10年約9%（ここの時点で50%）が、新たに入社した年から、10年以内には、辞めるつもりでいる」と言うのです。そもそも、2023年4月新入社員は中途採用の割合約45.5%（2023年4月20日日本経済新聞より）です。

このような社会的な背景で言うと、これからの高校生には、どんな状況だったとしても、柔軟に変化に対応するため、自ら判断し、選択できる力と、責任を持てるタフなメンタルと、それを守る知恵（友人やゆとり、息抜き・・・等々）をつけておく必要があるのではないのでしょうか。もう一つは、「探究」という言葉で語られるように、自分で課題を見つけ、向き合い、解決しながら進む（そしてまた課題を発見する）「学びかた（学びのサイクル）」と身につけていることも大切です。

『10年後のハローワーク』（川村秀憲著、アスコム）という本で、著者は生成 AI 研究者ならではの視点から、今ある仕事の10年後を語っています。中でも、「夢をバカにすると路頭に迷う時代となる」という言葉で示すように、お金をもらえる仕事がかつてと変わっていくことを予想しています。**そのためには、「自分で決めて、自分で考えたことで成功する体験をしてきていること」**（自己肯定感につながると言われる）これがものをいう社会になっていくと述べています。

本校でも、「**自分で決めて、自分で考えたことで成功（失敗）する経験**」や、「**キャリアを支援すること、キャリアのための「根っこ」となるスキルをつけること**」に力を入れていきたいと思っています。**保護者の皆さんも、リスクリソグして、もう一度就職するとしたら、どんな力をつけておく必要があるかを考えて、お子さんとお話してみたいかがでしょうか。**私たち、大人世代も人ごとではありません。生涯現役でないと、生活できない社会はもうそこまできているのですから。

富士宮育英財団のこと、知っていますか？

公益財団法人富士宮育英財団を知っていますか。本校の設立にあたり、その基盤作りとなる資金を出してくださり、その後も「学業優秀、品行方正でありながら、学資の支弁が困難」な学生・生徒の支援をしている団体です。私たちが、日頃、学びを深め、将来について考えることができるのは、このような先人たちがいてくれたからこそ、できています。キャリアを考える上でも、感謝の心を忘れずに、進路決定できる生徒は、「最後の踏ん張り」がきくと、私は思います（経験上、その傾向が高い）。



夏休みの出来事を声に出す！①と、家族での下田旅行

下田に家族で行ってきました。家族と一緒にいることは、本当に心が落ち着きますし、癒しの時間となります。現代は、様々な家族形態もありますし、心を落ちつける場所も様々です。その多様性を引き受けながら、自らの生き方を模索したいですね。さて、8月6日に、静岡県事業「行きたい学校づくり」推進事業の一環で、静岡大学の宇賀田栄次教授のお話を聞くことができました。宇賀田先生は、社会学という学問分野を切り口に、研究と探究の違いを明示し、探究に必要な課題設定と、そのために必要な「質問力」について講義されました。質問することは実は難しく、その構造をアカデミックに説明され、さらに、宇賀田先生の民間会社での経験から得られた質問のテクニックを教えていただきました。質問によって得られた情報を抽象化、具体化し、特に具体化することによって、自分の言葉となり、自分ごとになっていくとまとめられ、大変わかりやすい講義でした。私の下田の家族旅行は、良い景色を見て、知らなかった事に会い、新しい経験をした事で日常の仕事を忘れて安心できたのだと、言葉にすることで自分事になりました。



夏休みの出来事を声に出す！②と、SWGs (サステナブル・ウェルビーイング・ゴールズ)

8月21・22日第74回全国高等学校PTA 連合会大会2025が三重県の津市で行われ、本校の牧野PTA会長と参加しました。牧野会長との穏やかな会話も大変有意義な時間でしたし、大会の講演でも学びの多い大会に参加できました。講演では、「演出家であり、システム工学者である」國友尚氏の話をお聞きしました。國友氏は、Yahoo!知恵袋や、歌手の浜崎あゆみの演出などを手掛けています。

國友氏は、ウェルビーイングについて語られました。特に、「人はどのように「感動」をするのか」と言うことを、深掘りし、そのパターンを見つけ出して分類化しました。それにより、自分の理解が進めば、意識的に感動することに近づくことができると研究しているようです。それを、ウェルビーイングと結びつけていました。世界のSDGsは2030年で、次は、SWGs(サステナブル・ウェルビーイング・ゴールズ)と言われています。あなたも、自らの幸せを感じる瞬間を分析しておくとも良いかもしれませんね。



夏休みの出来事を声に出す！③と、ネパール国とのつながり

8月23日第11回国際バカロレア推進シンポジウムが、文科省IBコンソーシアム推進事務局の主催で、オンラインの形式で行われました。オンライン研修は、常に世界のどこでも視聴、参加することができ、本当に世界の変化を感じます。特に、国際バカロレアで資格の取得をして、海外の大学に進学した高校生の「生の声」を聞くことのできるシンポジウムであったために参加しました。とにかく、生徒が一体何を感じ、何を思ったか、そして、何を掴んだか、それに興味がありました。(そこにしか興味がないとも言えます。)その中で、教育って素晴らしいと、高校生が言っていたことが印象的で、「教育(IB)を受けると、多くのタスクを与えられるけど、それを自分で自分を管理していくことは、人との協力や喜びを共有していくことになって気がついた」と言っていました。これを高校生が言うことに大変驚きました。そのことから、やはり、高校生の感性は可能性に満ち溢れています。本校では、昨年からは富士宮市とネパール国のマンダン・デウプール自治体が協定を結んだということで、様々な取組をしています。今年も写真展、オンライン交流などを実施します。ぜひ、興味を持ってみてください。

